

新潟市学校図書館 支援センター通信

4つの
支援センター
合同でお届け
します

合同版
No.7

中央図書館

豊栄図書館

白根図書館

西川図書館

「新潟市の学校図書館は日本一」を目指しています！

中央図書館 館長 山川正士



3年前の春、私が図書館に異動してきたころ発覚した事件は、関係者の方々にとって本当に大変だったと思います。その対応の中で、「こんなことでこれまで新潟市が積み重ねてきたことを台無しにしてはならない」という市長の思いを受け、学校図書館支援センターのスタッフが苦心をして作ってくれたのが、『新潟市の学校図書館は日本一』を目指しています！』というチラシです。これによって、新潟市の学校図書館のすばらしさを確認するとともに、これから目指す方向を教育委員会全体で共有することができました。

2年前の春、そのチラシに掲げた「読書センター」と「学習・情報センター」という言葉・考え方を、広く関係者や市民の皆さんに理解していただくためにはどうすればいいか、と考えていたときに、全国学力・学習状況調査に基づく研究報告が公表されました。その中で「読書と学力には相関関係がある」という経験的には誰もが感じていることが、データを踏まえて明確に説明されていました。

そして昨年の春、文部科学省が「みんなで使おう！学校図書館」と題したパンフレットを公表しました。学校図書館の意義やさらなる活用に向けた考え方、国の支援策などがまとめられています。それを見ると、新潟

市の取り組んでいることは国の方向と一致しており、現段階では新潟市は全国のトップランナーであることがわかります。

もちろん、不十分なことはまだまだたくさんありますし、財政状況も厳しくなる一方ですが、そんな中でこそ、学校図書館と市立図書館の司書同士のつながりや、教育委員会の関係課・機関のサポート体制といった新潟市の強みが大きな意味を持つてくると思います。今年度から始まった「学校図書館活用推進校」事業が、今後5年間でどんな成果を挙げるのか、とても楽しみです。また、注目されている「小中一貫教育」や「幼保小連携」を進めるために、読書活動や学校図書館がつなぎ役を担うことができるのではないかと考えています。

半年前、小学校の還暦同窓会に出席し、4年生のときに一緒に図書委員を務めた友人と久しぶりに会いました。休み時間になると司書室に行って何かしていたことなど懐かしく話しているうちに、当時の司書の先生の名前を思い出しました。50年前、学校の図書室は私の遊び場でした。最後の職場が図書館というのも、何か不思議な気持ちです。



特集「学校図書館を活用した授業づくり」

寄稿

ビブリオバトルを実践して

上所小学校 教諭 五十嵐眞由美



「本を通して人を知る 人を通して本を知る
～ゲームで広がる読書の輪～」

昨年度、このキャッチコピーにひかれ、2年生の児童と図書的时间を使って、ビブリオバトルを実践した。発案者の谷口忠大さんは、気楽に楽しめる読書活動であり、実践することで副産物的に様々な効果があると書いている。公式ルールを基に、まず、教師がモデルを見せた。2年生の児童が取り組みやすいルールに変更し、早速やってみた。初めは、活発な児童が中心だったが、アドリブの面白さや、おしゃべりをするような気楽さが分かると、挑戦する子が増えていった。学級全体やグループなど形態を変えてビブリオバトルを楽しむことができた。

今年度3年生になり、国語の授業を通して、もっと読書の幅を広げ、伝え合う力や言葉の力を育むことができないかと考え、ビブリオバトルを取り入れた。6月「物語のしかけをさがそう」の単元で、教科書教材と並行して読んだ物

り語から、自分が選んだ物語でビブリオバトルをするというゴールを設定した。本は、学校司書の協力を得て、物語の展開にしかけのある本や、同一作者の本を用意してもらった。物語は、ゆうすげ旅館をきりもりするつぼみさんが主人公で、所々に散りばめられた布石をつなげていくと物語のしかけが分かるように構成されている。子どもたちは、同じ物語を選んだ人同士で練習をして本番を迎えた。授業後の児童の感想では、「今日は一回目でした。みんな慣れていない中、頑張っていました。失敗しても最後までめげずに頑張っていたところがとてもいいと思いました」や、「全体でやるのは緊張したけれど、みんなのパワーをもらって頑張ろうと思いました。これからもビブリオバトルを楽しんでいきたいです」とあった。今まで、ビブリオバトルに消極的だった児童も、体験を通して面白さに気づくことができた。そして、今まで以上に、読書の時間や休憩時間に本を通して友達と楽しく交流する姿や、紹介された本を図書館で手に取り、楽しそうに読む姿が見られるようになった。

「本を通して人を知る 人を通して本を知る～ゲームで広がる読書の輪～」のキャッチコピーに、私は「友達の輪」も広がることを付け加えたい。



読む力・話す力・聞く力をフル活用

ビブリオバトルとは…

複数の発表者が、制限時間内で自分のお気に入りの本を1冊紹介し、全ての発表が終わった後に、発表者と聴衆で「読みたい」と思った本を投票で決めるゲーム。知的書評合戦とも呼ばれる。

参考資料

『ビブリオバトルハンドブック』ビブリオバトル普及委員会/編著、子どもの未来社

『ビブリオバトルを楽しもう』粕谷亮美/文、谷口忠大/監修、しもつきみずほ/絵、さ・え・ら書房

学校図書館活用推進校事業が始まり、学校図書館への注目度が増してきています。今回は小中学校2校から、授業実践をご紹介いただきました。

寄稿

「国語の授業」と「読書の時間」

亀田西中学校 教諭 佐藤可奈子



「過去に別れた友人同士が再会する短編が欲しいです。紹介してください。」

今から数年前、学校図書館支援センターの職員に、こんなザックリとしたお願いをしました。3年生の国語教科書（光村図書）教材「故郷」の事後読書として、似たような時間軸の話を読ませようと考えたのだ。この時点では、私の中で「国語の授業」と「読書の時間」が、やや分断されていたと思う。このとき紹介して下さった作品のひとつが、重松清の『小学五年生』（文藝春秋）に収録されている一編「南小フォーエバー」である。批評しながら読めるように、ブッククラブ型の発問を考えて、シートを作った。

1年後、アドバイスをくれる人が現れた。マイスター教員の藍澤まき子先生である。藍澤先生は「南小～」とシートを見て一言、「これ、「故郷」の前にやれば？」一瞬固まる私。目から鱗の逆転発想だった。「南小～」は、とても力の


ある作品だ。実際、生徒に「1年間で最も心に残る教材」を問うとナンバー1に輝く。やんちゃな生徒も「俺、これ、わかるわ。」と言う。この感覚を得た後に「故郷」を読む。生徒は「南小～」の読みの体験を活かして、すんなり読んでしまう。話の構造が似ているので共感しやすくなるようだ。もちろん、ただ読むだけでなく、マンダラートやカードなどのアイテムを使って手作業したり、ホワイトボードを使った意見の交換によって、自分が気づかなかった仲間の解釈に驚かされたりしながら読みを深めていく。授業が大きく変わった。「南小～」を「故郷」の前に移動することによって、授業の柱の位置が変わった。「南小～」に「故郷」を読むための経験の習得という使命が与えられた。俄然、授業も熱を帯びてくる。「国語の授業」と「読書の時間」が重なり、二つの作品が、響き合っ

て読みが深まった。これからも、新潟市自慢の学校図書館の環境を活用して、授業づくりをしていきたい。頭の中に書庫を持っている学校司書の皆さん、国語科へのよい作品の紹介をお待ちしています。



マンダラートで人物を整理する様子

学校図書館支援センターから 

学校教育の様々な場面で学校図書館が活用されています。市小研（例会、8月の研究発表会）や中教研、中学校司書の会、総合教育センターの講座など、研修会に参加するたびに、いきいきとした実践例をお聞きました。12月の市小研学校図書館部教諭部の研修では、学校図書館支援センターもビブリオバトルの説明と発表者の一人として参加しました。各学校で実りある取組みが繰り広げられています。これからも、活用の様子を広く聞き取り、紹介・発信していきます。 

学校図書館活用推進校の動き



平成 27 年度と 28 年度指定校が情報交換



平成 27 年度から始まった学校図書館活用推進校事業。2 月 8 日（月）から 24 日（水）にかけて、区ごとに今年度の活用推進校による実践発表会が開催されました。学校図書館全体計画・年間活用計画の工夫点や授業実践について報告されました。28 年度指定校も参加して情報交換が行われ、28 年度指定校からは、次年度に向けた取組のイメージを膨らませるため、具体的な質問が多く出されました。指定校同士で取組について相談されてきた様子もお聞きし、「図書館活用」というキーワードで学校間の連携が広がったように感じました。

情報交換のなかで聞かれた感想から…

- 「これまで何気なく取り組んでいたことを整理し、可視化できた」
- 「授業を通して、図書館の利用方法を学ばせることができた」
- 「複数の資料を使う中で、生徒同士で自主的に交流する姿があった」
- 「年間活用計画の書式や授業で活用した後の記録は自校でも参考にしたい」

学校図書館支援センターは、学校からの相談をお待ちしています。学校図書館の活用でお困りのことがありましたら、気軽にお問い合わせください。

相談事例

- 学校図書館全体計画を作成するため、すでに整備している学校を紹介しました。
- 図書館活用を推進するためのアイデアを提案しました。



お知らせ

教育相談センター・各区の教育相談室に、貸出図書の搬送を始めました。図書館が用途に応じて資料を選び、宅配便でお送りします。職員の方が来館して選んだ本を、後日お送りすることもできます。

自由読書用に子どもの興味関心に合わせた本、工作やレクリエーションなど各種活動に役立つ本など、ご利用ください。返却時のみの搬送利用も可能です。



発行：新潟市立中央図書館
〒950-0084

新潟市中央区明石 2-1-10

TEL 025-246-7700

FAX 025-246-7722

E-mail chuo.cl@city.niigata.lg.jp